

市長とのおしゃべり会 会議録

日 時	令和7年11月7日（金）10時～11時	
場 所	へきなん福祉センターあいくる 会議室2	
出席者	人数	14人
	碧南市	小池市長、市民病院副院長、医事経営課長、管理課長
テーマ	健康・医療（選ばれる市民病院になるには）	

要旨

市民病院の現状について市長から説明をした後、意見交換を行った。

主な意見は以下の通り

- ・1月に入院したが、食事がおいしくなかったため改善してほしい。
→2月に業者変更した。選定業者は美味しさを重視したいという姿勢を持っている。
- ・手術によっては手術可能な医師がいる別の病院を紹介されたが、以降、対応できるように医師は増えているのか？
→病院の大きさも踏まえた医師の数となっているため増えてはいない。高度な手術などは規模の大きい病院を案内している。
- ・地元出身の若い医師の意見を取り入れ、病院の在り方を考えると良いと思う。
- ・口コミで評判が良くないと聞く。お金が必要にはなるが、医師が働く環境や待遇を良くすることで、医師も増え、口コミが良くなり患者も増え、採算も合うようになるのではないか。
- ・市民病院の内科に通院中に、町医者を紹介された。
→市民病院の機能は検査・治療であるため、症状が落ち着いた患者は町医者を案内することがある。地域の医療機関として役割分担の意味合いもある。
- ・玄関ボランティアをしているが、会員の減少や高齢化で継続が難しくなっている。長年続けているが、メンバーからはもうそろそろ止めてもいいのではないかと意見も出ていて、今後どうすべきか困っている。
→病院としてはとてもありがたいと思っている。車いすやシルバーカーが必要な患者も多く、ボランティアの方がいてくれて大変助かっている。
- ・待ち時間が長いイメージがあって、町医者に行ってしまう。
- ・別病院で通院中に5人ほど担当医師が変わった。市民病院も同様なのか。異動しない医師がいると安心できる。
→医師が一つの病院に長くいると弊害もあり、市民病院も含めほとんどの医師は3年ほどで異動がある。
- ・以前、小児科の夜間対応は入院になると言われたため、費用はかかるが別の病院に行ったことがある。現在は変わったか？
→変わっていない。小児科医が2名のため、夜間対応が難しい。
- ・高度な医療を求めるのではなく、開業医や訪問看護と手を取り、最後を迎える方に寄り添える強みを持つ療養に特化した市民病院を作っていくことで、病床稼働率も増え、また、患者からも市民病院で良かったと感じてもらえるのではないか。